

園長だより NO56

秋らしい陽気になったと思えば台風の到来、活発な梅雨前線の動き、暑い夏を思えば、いささか過ごしやすさを感じますがこの寒暖差には身体がついていきません。でもおおぞらの子ども達は暑い、寒いと音を上げず元気に遊んでいます。

運動会に思うこと - 発達に応じて

先月の便りで或る園長のブログを通して運動会のあり方に少々、触れてみました。おおぞら保育園はどうでしょうか？

活発に活動した夏を通じて心も身体も成長した子ども達、現在はより一層、身体を使い、頭を使い（思考の運動）、遊び込んでいます。そんな子ども達の生活(遊び)を削いでまで運動会に没頭することは避けたいものです。



一般的に運動会から連想させることは、成果の発表というスタイル！ 日々の生活(遊び)も制限し練習に没頭する。形が身につくまで教え、取り組ませことに比重がいつまでも。そんな運動会が全国各地で行われている。つつい保護者が子ども達の育ち(成果)を喜ぶあまり育ちを急がせたり、前倒しの教育を実施しがちな教育が蔓延している。子どもの育ちのためには発達に応じてすることが大切と保育を志した時から教え込まれているのだが・・・

私は熱心に指導していることを否定しているのではないが 子どもの育ち(発達)を十分と考慮しないで活動を考え、取り組ませている園があることを残念に思う。



当園は開園から組体操を行っています。長年やってきていること、本来なら組体操の取り組み自体を吟味して考えなくてはならないのだがなくすことは簡単である。「園長がやめよう」といえばそれで済んでしまう。

しかし、取り組んでいるのなら子ども達の発達に応じた内容にすることを考え取り組むことが大切である。

発達に適していない場合は必要以上に労力をかけたり、過剰なストレスをかけ結果的に育ちが削がれる(損なわれる)ことになる。

運動会でおみせする演技についてはレベルを落とせというものではない。子ども達の育ちに応じた、乗り越えていく課題はしっかりと考えて取り組んでいる。

発達に応じてということは自然にまかせて子ども達が育つ姿を見守っているだけではありません。励まし、促し、適切に指導(一緒に考える)時には見本となるモデルを見せたり、子ども達の姿からさらに伸びようとする姿をしっかりとキャッチして発達を促すことができます。

子ども達、ひとり、一人が自分で解決できる(乗り越えていける。獲得できる)内容を考え、あげること、保育士やかかわる大人から援

助や支援を受けて、時には一緒にその問題や課題に向かい解決できることに繋がります。

発達に応じた保育(教育)を行う際は過度な教え込みや前倒しの教育を行うことが適していないことを認識したいものです。

秋を見つけにいこう！

それぞれの興味関心、自分のしたい遊びに没頭することは子ども達の世界では当たりまえのこと、でも時にはみんなと一緒に行動をともにすることがそれぞれの意欲的な活動の源になることがあります。

園庭にはクヌギの木があります。



クヌギの木はコナラと共に里山の重要な構成樹とされています。子ども達の楽しみと言えばだるま型の大きなドングリの実を集めること、この時期はひとつ、二つ・・・次々と実が落ちます。

今日(9/28)は久しぶりの晴天、少々、汗ばむ気候ですが1歳児(もも組)の子ども達はいつもよりも表情や目の輝きが違いました。

みんなの手には牛乳パックを簡易的に細工して作ってもらったお出かけバックをもって

これからどんぐりや石、葉っぱを拾い集めることが子ども達から伝わってきます。

それぞれがだるま型のドングリを拾っては

自分のバックの中へ、拾うたびにじっくりとドングリを眺めてみたり、拾い集めることに



「みんなであつめる」

夢中になっていたり、ひとり、ひとりがドングリに向かう姿は異なります。

拾い集める子の姿をじっと見つめている子もいる。その子にも「たのしそうだな」「やってみたいな」「なにに それは一あに？」と思いをもっているに違いありません。

しばらく見守っていると一人の女の子がどうぞと おすそわけをする。



「どうぞ！あげる」

夢中になりながらも傍らにいる子の様子を気にかけている。1歳児ではそれぞれの関心事を思う存分やらせてあげること、主眼が置かれるが 保育園の生活で一緒に育つとは大人にあれこれ言われずに自らが自然とふるまえる感覚、感性が育つことなのでしょうか

育ちを感じられるほほえましい場面は日常にたくさんある。それに気づける大人でありたいものです。 (園長 廣部 信隆)